

タイトル	やめられない	
対象年齢	4, 5 歳児	ペープサート

<作成の意図>

メディア(ゲームやスマホ, DVD, TV など)に長時間ふれることでのあまり良くない影響や, 上手なメディアとの付き合い方を考える機会とする。

○内容(あらすじ等)

お父さんに外で一緒に遊ぼうと誘われたものの, スマホでのゲームがやめられない B くん。ゲームをやりすぎることでのどんな影響があるのか, メディアとの付き合い方について考える。

○配慮事項

ストーリーの最後の問いかけ部分に関しては, あくまで文例です。参考にしてください。



『やめられない』

ナレーター B君のお家の様子を見てみましょう。

お父さん 「おーい、外で一緒に遊ぶか！」

B君 「うーん。あそぶー！」

お父さん登場

B君とスマホが登場

ナレーター B君は遊ぶといったのになかなか出てきませんね。

お父さん 「おーい、まだか？」

B君 「あと、もうちょっと・・・」

お父さん 「・・・」

ナレーター お父さんは仕方がないので新聞を読みながら待つことにしました。

ナレーター まだ、B君はスマホでゲームをしています。せっかくお父さんが誘ってくれたのに・・・外はもう暗くなってきました。

お父さん 「外が暗くなってきたし、外で遊ぶのはまた今度にしような。」

B君 「ええ、なんで？一緒に遊ぶって言ったのに！」

お父さん 「なんでBが怒るんだ？ずっと待っていたんだぞ！」

B君 「だって、だって・・・」

お父さん 「遊ぼうと思って、ずっと待ってたんだぞ。おこりたいのはお父さんの方だぞ。」

B君 「もう、うるさい！うるさいなあ！」

お父さんのセリフは
優しく怒らずに言う

ナレーター B君は自分の気持ちをうまく伝えられずにイライラしているみたいですね。

※「みなさんは、B君やお父さんを見てどう思いますか？」

「B君はどうして怒っているのでしょうか？」などの問いかけをして考える時間を作ってみましょう。

ナレーター お父さんと B 君はどうなったのかな？

お父さん 「あのな、ゲームをするのは楽しいけど、
あまりやり過ぎるのはどうだろう？」

B 君 「でも・・・」

お父さん 「ゲームはおもしろいかもしれないけれど、
大変なことになるんだぞ。」

B 君 「大変なことって何？」

お父さん 「まず、頭の中がゲームでいっぱいになって、
目や頭が疲れてしまうんだ」

B 君 「ふーん。」

お父さん 「それに、ゲームの音や光をずっと聞いたり見たりしていると
イライラしてしまう」

B 君 「うーん。」

お父さん 「信じてないだろう？でも、B はすぐに怒っていたぞ。」

B 君 「うん・・・。」

お父さん 「それにゲームを始めると、楽しすぎてやめられなくて、
他のことができなくなる。
だから今日はサッカーに行けなかっただろう？」

B 君 「あっ・・・。」

お父さん 「もう、やめられない病になっていたんだよ。それでいいのか？」

B 君 「だめ。いやだ。」

ナレーター さあ、みなさんはどう思いますか？

※ 「B 君が怒っていたのはどうしてだったか分かったかな？」

「ゲームをやり過ぎるとどうなるんだろう？」

「みんなだったらどうするかな？」

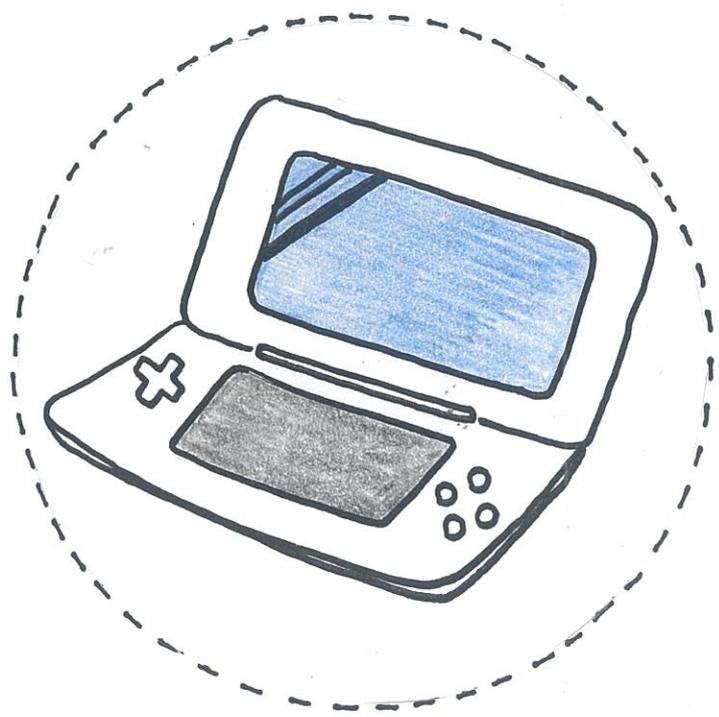
などの問いかけをしてみて考える時間を作ってみましょう。

「ゲームは続けたいけども」
「せめてならい」

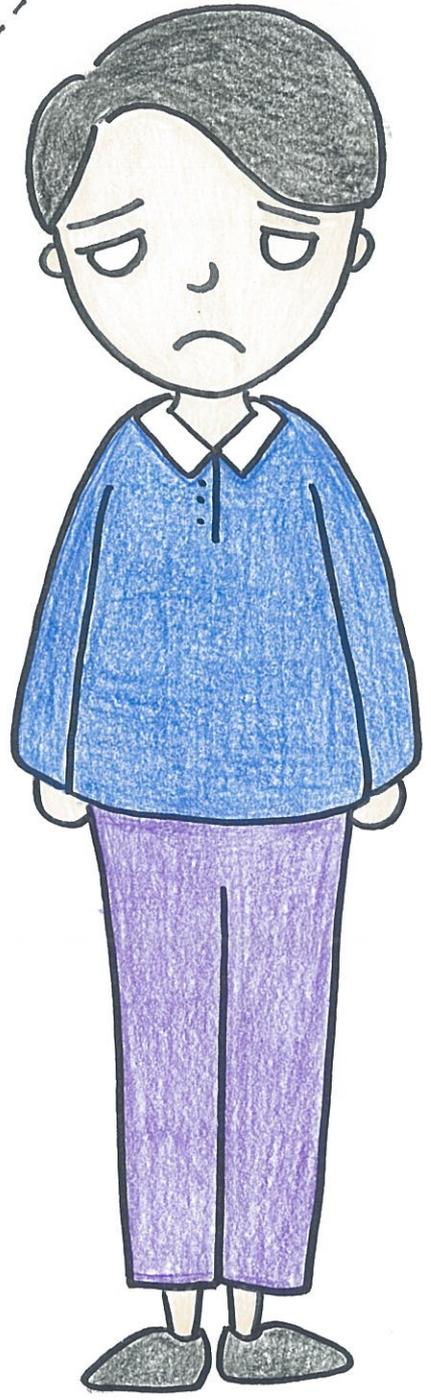
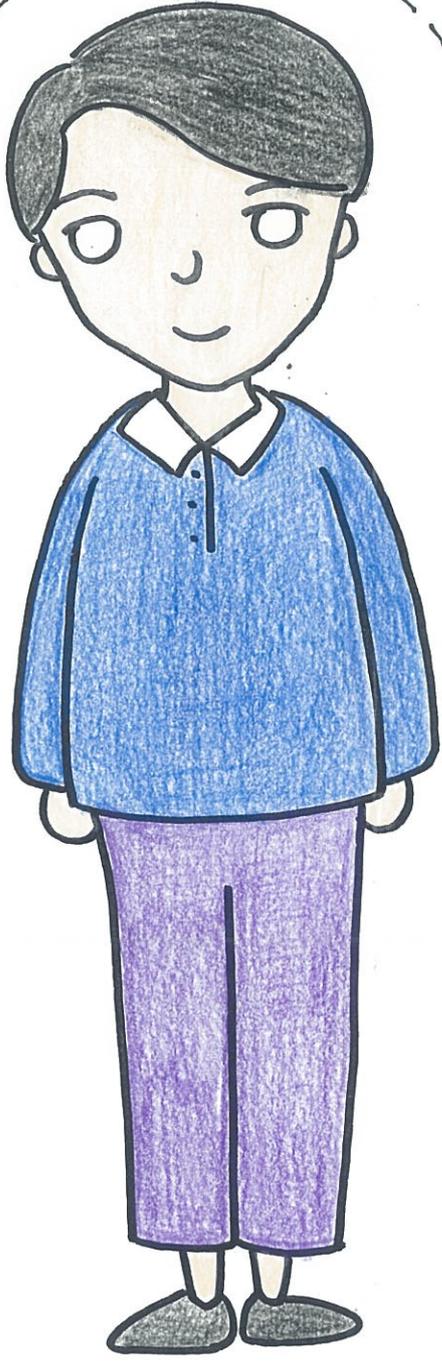
Ben



ゲームとスマホ

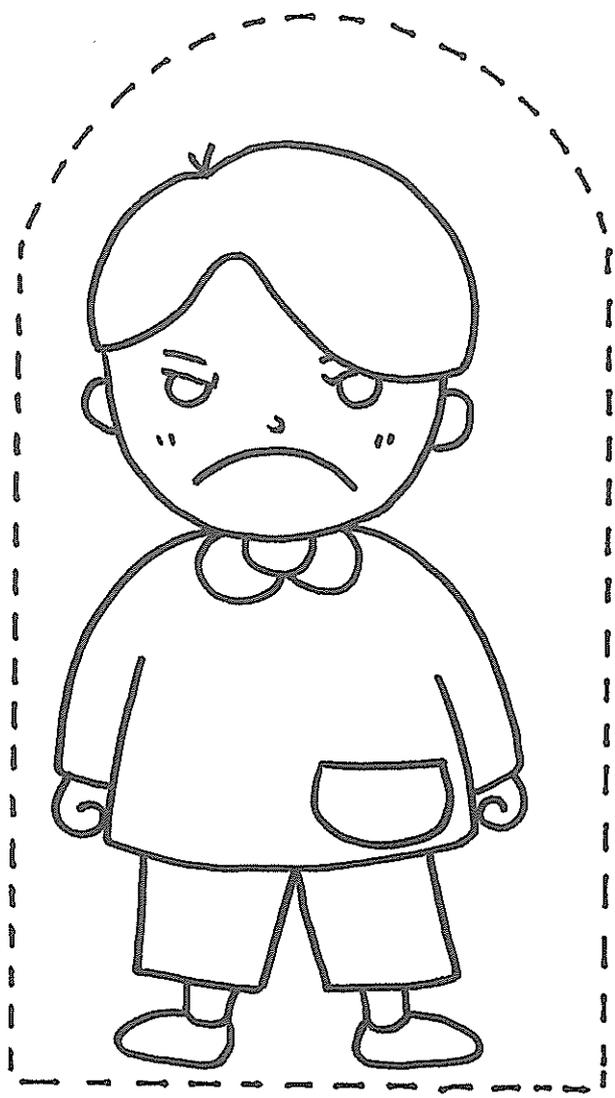
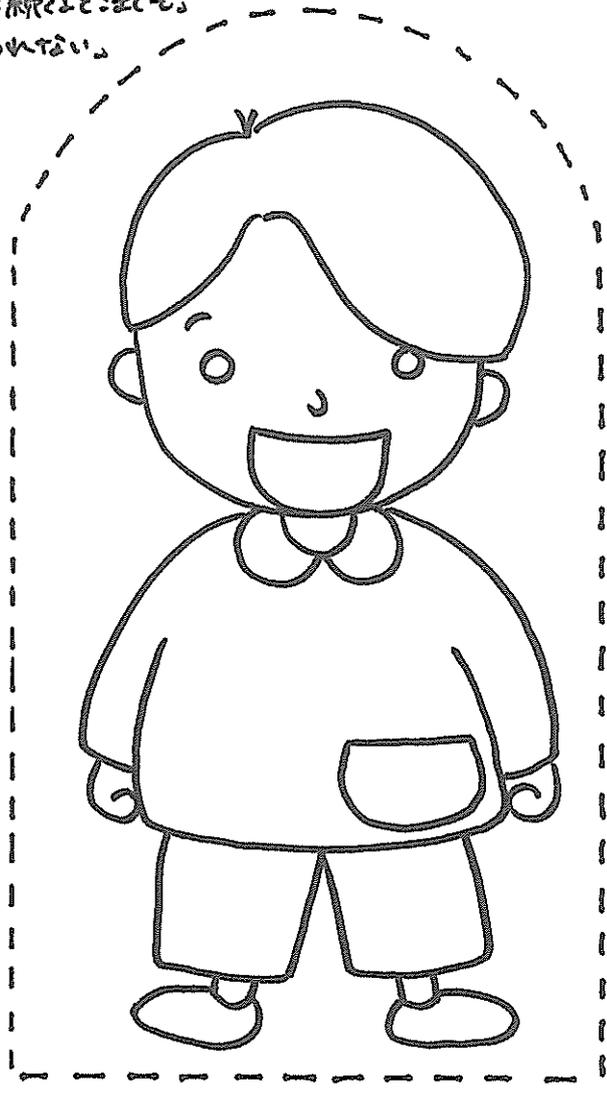


「ゲームは長くはたまで」
「やめられない」
おとうさん

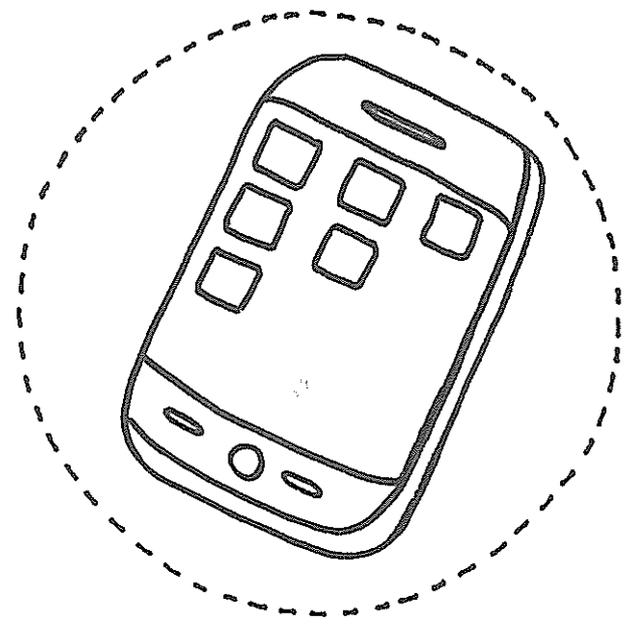
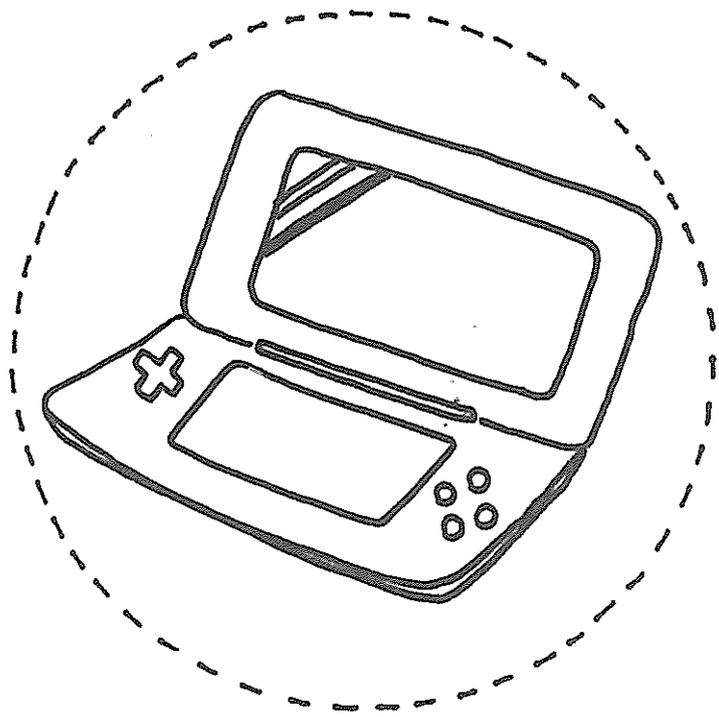


「ゲームは続けるよ」といって
「やめろやめろ」といって

BCW



ゲームの要素



「ゲームは長くよほど子ども」

「おめらねは」

おじいさん

